



吉野髷

この髪型は吉野太夫好みからついた名の髷。三枚の油つけと毛カブタを根に括り、真ん中の一枚を折って括り、残りの二枚を左右に折って、立ち髷を作る。紅白の市松の布を髷の中に通して括り後ろで蝶々結びにする。

この髷は芸妓さんの髷として親しまれているが、太夫にも有り、油つけを三枚と毛カブタを根にくくり付けて、根の所に別の油つけを巻き付ける。先ほどの三枚の油つけと毛カブタと毛を一枚に広くして舟形にして毛先を折って島田のイチの所を持って行き寸法を決めて折り、島田のイチに仮元締を掛ける。イチの形を整えて中に紺紙を貼る。飾りは房を下から上に回し上で結んで下に垂らす。

つぶし島田



立兵庫

太夫の髪型の中で最も豪華なものと思われる。油つけと毛カブタで立ち髷に作り、二分して、髷を左右に作り、中に毛カブタを入れて形を整え、赤青の二本の鹿の子を前から横、後ろと掛け髷の上を通して前に入れる。横は捻らない。

たてひょうご

この髪型は道中髷の時に結う髪型で、お福の髷にイタズラの毛を下げたもの。立ち髷で、赤青の二本の鹿の子を髷の前から掛け後ろで交差させて、端を前に入れる。二本のイタズラの毛を鹿の子の間に差す。鹿の子も場合によって三本差す時もある。また、梵天を差す時もある。

きんしょうじょ

錦祥女



女元禄

男元禄と同じ作り方。髷の幅が広く、丸みをもたす。幅は10～12cm位にする。髷の中に紺紙を二枚貼る。髷飾りは少し違ってくる。赤白の市松の布か丈長(夏)になる。後ろから前に掛けて交差さして後ろへもって行き、折り目のある蝶々結びにする。

おんなげんろく

二枚の油つけの毛を、根の所へ持って行き、毛カブタを一緒にして括る。立ち上がりにくくり、髷の高さを決めて折り、根の所を括る。筭と一緒に回し元結を掛ける。毛先を根に巻き付け、その上に立ち上がりの所まで油つけを巻き付ける。髷の中に紺紙を入れて、貼りつけて髷幅を5～6cm位にする。髷飾りは金糸の房を前から後ろにもって行き一回結びにして房を垂らす。

*男元禄



(写真は『京・嶋原太夫：太夫・髪型の世界』からの転載)